

2016年7月17日(日)朝10:10~  
7月第3共同主日礼拝式説教

聖霊降臨節第10、大掃除等  
日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：天には、玉座がある

聖書:ヨハネの黙示録 4章1～5節

＜口語訳＞

新約聖書390頁

ヨハネの黙示録 4章1～5節

＜新共同訳＞

新約聖書457頁

ヨハネの黙示録 4章1～5節

＜新改訳第3版＞

新約聖書481頁

ヨハネの黙示4章1～5節＜塚本訳＞

新約聖書786～787頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
  - ◇ヨハネ黙示録1章では、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を持って生きるキリスト者への励ましのことばと黙示の神の御子イエス・キリスト様の愛の思いが啓示され、2章1～7節は、エペソ教会へ、8～11節は、スミルナの教会へ、12～17節は、ペルガモ教会へ、18～29節は、テアテラ教会へ、3章1～6節は、サルデス教会へ、7～13節は、フィラデルフィヤ教会へ、14～22節は、ラオデキヤの教会への手紙です。
  - ◇ヨハネの黙示録4章～5章は、ヨハネが見た天の玉座・御座と屠られた羔羊なるお方の姿です。
- ⇒ヨハネの黙示録4章1～5節は、「天の玉座・御座」とその周辺の光景描写です。

⇒KK師の分析を利用しますと、

- ①ヨハネの黙示録1章は、神の審判者なる主イエスの姿です。
- ②ヨハネの黙示録2～3章は、7つの教会への手紙です。
- ③ヨハネの黙示録4～5章は、神の審判の導入部分で、「天の玉座・御座」と「屠られた羔羊なるお方の姿」があります。
- ④ヨハネの黙示録6章は、神の審判の巻物の封印1～6巻が解かれます。
- ⑤ヨハネの黙示録7章は、神の救いに与る者が挿入されています。
- ⑥ヨハネの黙示録8～9章は、7巻の封印の開封と神の1～6のラッパの吹き鳴らしです。
- ⑦ヨハネの黙示録10章は、神の救いの基準提示、11章は、神の証人の登場です。
- ⑧ヨハネの黙示録12～14章は、神とサタンとの関係が描かれます。
- ⑨ヨハネの黙示録15～18章は、地上の権力者ローマの滅亡が描かれます。
- ⑩神の最後の審判の後、新天新地の描写。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第4章1～5節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録4章1～5節；ヨハネは、開かれた天の門の先に天の玉座・御座とその周辺の光景、24人の長老の座、7つの神の御霊、7つの燃える灯火を啓示されました。

◇1～5節；塚本訳◆序言、天のおける玉座

「1 この(異象の)後で、私は(また一つ異象を)見た。そして視よ、天に(一つの)開いた門があった。すると、(前に)ラツパのように(大きな声で)私に語るのが聞こえた(あの)最初の声が、(私に)言うた、「ここに上れ、この後起こらねばならぬ(ように決まっている)ことをお前に示そう。」

2 (すると)直に私は御霊に感じた。そして視よ、天に玉座があった。そして玉座の上に坐し給う者があって、

3 その坐し給う者は、外観が碧玉及び赤瑪瑙に似ていた。そして(その)玉座の周囲には、外観が緑玉に似ている虹があった。

- 4 また玉座の周囲に二十四の座があり、その座の上には、(祭司のように)白い着物を着、その頭に(は王のように)金の冠を被っている二十四人の長老が坐っていた。
- 5 そして玉座からは、電光と、(鳴り轟く雷の)声と、雷霆とが(絶えず)出ている。そして神の七つの霊である七つの炬火が、(その)玉座の前に燃えている」と、ヨハネは主からの第2の幻を啓示されました。

◇1節;ヨハネは、先ず「**天の開かれた門**」の啓示と天に上れとの命令と神これから後に起こることの予告の**天の声**を聞きました。

⇒OS師が、ご指摘のように、**7つの教会への手紙**は厳しいものでしたので、ヨハネは、大変気落ちしていましたが、**神**は、彼を勇気づけるために、「**開かれた者と不動の神の栄光の御座・玉座**」を見せて下さったのです。

⇒この後の**神のこの世への審判**では、「**この世での教会が受ける迫害**」も、啓示されます。

⇒併し、挿入という形式ですが、随所に、**神の教会、キリスト者への神の確かな救い**も啓示されているのです。

◇2～3節a;ヨハネは天の声を聴いた後、「**直に私は御霊に感じ**」、「**視よ、天に玉座があった**」、「**玉座の上に坐し給う者があって**」、「**その坐し給う者は、外観が碧玉及び赤瑪瑙に似ていた**」と、**驚くべき光景**を見たのです。

⇒「**碧玉**」、「**赤瑪瑙**」が、何を意味しているか諸説がありますが、**神の栄光**を表現していると理解します。

⇒ヨハネが、「**御霊に感じた**」には、**栄光に輝く神の御子**が、「**不動の玉座・御座**」に坐して居られたからです。

⇒地上の教会は、**OS師**の表現よると、「**傷つき**」、「**病み**」、「**墮落し**」、「**腐れ**」、「**苦しみ**」、「**悩み**」、「**揺れ**」、「**傾き**」、「**血ぬられ**」、「**翻弄され**」ていたので、非常に不安定でした。

⇒今日の多くの教会が、高齢化し、若者から見放されたり、**神中心**から人間中心に移行した発想が横行しています。

⇒なまぬりい「**ラオデキヤ教会**」が、最後に啓示されましたが、旧約のダニエルに啓示された終わりの時代の国家は、粘土と鉄の混じったもので、強さが弱さに飲み込まれる時代です。

◇3節b～4節；「玉座の周囲には、外観が緑玉に似ている虹があった」、「玉座の周囲に二十四の座があり、その座の上には、(祭司のように)白い着物を着、その頭に(は王のように)金の冠を被っている二十四人の長老が坐っていた」と、「緑玉に似ている虹」と「白い着物」を着、頭に「金の冠」をつけた「二十四人の長老」が坐しているのをヨハネは、見ます。

⇒「緑玉に似ている虹」も、「二十四人の長老」も、解釈が多数あって定まりませんが、「緑玉に似ている虹」は、「神の栄光」は、一色ではなく、旧約の神の幕屋を蔽う幕のように多彩で、神の御子の働きの多彩さを表現していますし、「二十四人の長老」も、「白い着物」と「金の冠」が、示すとおり、忠実さと権威をもって、神に仕え、礼拝・讚美をささげる人々です。

⇒「傷つき」、「病み」、「墮落し」、「腐れ」、「苦しみ」、「悩み」、「揺れ」、「傾き」、「血ぬられ」、「翻弄され」ている教会にとって、不動な御座は、目には見えませんが、「神の恵みの御座」です。

⇒不動の神に全力で、礼拝をささげたい！と切望します。

◇5節；神の「玉座から」は、「電光と、(鳴り轟く雷の)声と、雷霆とが(絶えず)出ていて」、「神の七つの霊である七つの炬火が、(その)玉座の前に燃えている」という、「神の玉座・御座」周辺のもう1つの光景です。

⇒「電光と雷霆」に伴う玉座からの「声」は、鳴り轟きます。

⇒OS師は、天国は、「もの言わぬ絵画」ではなく、「音声ひびいて迫る」動き出す神の威光の世界であると語っておられます。

⇒詩篇29:3、「主のみ声は水の上にあり、栄光の神は雷をとどろかせ、主は大水の上におられる」お方は、「神の七つの霊である七つの炬火」の恵みの霊をもって、暖かく包んで下さるのです。

⇒玉座にいます神の御子に畏敬を抱くとともに、包み込んで下さる愛のぬくもりも忘れず、讚美、感謝をささげ、その愛のことばに聴き入り、お従いする礼拝をささげたいと願います。

⇒ヨハネは、教会の姿に不安を抱いたようですが、天の玉座の栄光と忠実に仕える二十四人の長老、緑玉に似ている虹に感動します。

## 結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**ヨハネの黙示録**は、**1章1節**、「**イエス・キリストの黙示**」とありますように、**神の御子イエス・キリスト様**が、**天使**を通して(1)、**長老・使徒ヨハネ**に与えた「**神の国到来の奥義**」の黙示で、**ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代**に記録されたものと理解されています。
- ◇**ヨハネ黙示録1章**では、**神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰**を持って生きる**キリスト者**への**励ましのことば**と**黙示の神の御子イエス・キリスト様の愛の思い**が啓示され、**2章1～7節**は、**エペソ教会**へ、**8～11節**は、**スミルナの教会**へ、**12～17節**は、**ペルガモ教会**へ、**18～29節**は、**テアテラ教会**へ、**3章1～6節**は、**サルデス教会**へ、**7～13節**は、**フィラデルフィヤ教会**へ、**14～22節**は、**ラオデキヤの教会**への**手紙**です。
- ◇**黙示録4～5章**は、**ヨハネが見た天の玉座・御座**と**屠られた羔羊なるお方の姿**です。  
⇒**ヨハネの黙示録4章1～5節**は、「**天の玉座・御座**」とその**周辺の光景描写**です

- ⇒「さばき」は、**神の専権事項、恵みも、神の専権事項**、「**神礼拝σέβομαι**」に全力を注ぎたい。
- ⇒「**祈り、願い、讚美、再宣言**」と「**神の愛と恵み**」は、**神のしもべの使命**です。
- ⇒ヨハネに**黙示**されたことは、「**神礼拝をするσέβομαι**」ことに、「**(主にある)患難、王国(における幸福)、イエス(来臨)の待望**」をもって戦う「**ヨハネの兄弟**」とされたことを**光栄に思う神の教会の人々**によって**継承される**のです。
- ⇒ヨハネの**黙示録4章1～5節**は、「**傷つき**」、「**病み**」、「**墮落し**」、「**腐れ**」、「**苦しみ**」、「**悩み**」、「**揺れ**」、「**傾き**」、「**血ぬられ**」、「**翻弄され**」ていた**7つの地上教会**への**不安**を蔽い隠す**神の愛と恵みの啓示**でした。
- ⇒OS師が、「**神(聖さ)を(恵み)で、神の(怒り)の火の色を(救い)の(贖い)色で包んでくれる緑玉に似ている虹**」の多彩な色に感動する**神礼拝**を今後もささげて行きたいと願います。
- ⇒**御子イエス・キリスト様**は、虫けらのように扱う**この世の権力者ローマとこれを利用する者の迫害・十字架**を復活への希望をもって、**背負い貫いて下さったことを感謝**したい。